

豊臣氏による大坂城築城後、上町台地の西側一帯に格子状の道路が建設され、台地の上と下がつながる町が形成されます。

大川沿いには京大坂間を結ぶ三十石舟が発着する船着場があり、八軒家と呼ばれる旅籠をはじめ宿泊施設などでにぎわいました。また高麗橋は多くの街道の起点になっていました。

現在の大阪合同庁舎 1 号館付近には、西日本の司法・行政の中核である東町奉行所があり、周りでは訴訟人などを手助けする仕事も盛んでした。

大川は舟遊びにも大いに利用され、遊興社交の場として落語にも登場します。

東海道中膝栗毛・・・「伏見の昼舟に途中より飛び乗りて、早くも大坂の八軒家に」

大川の登場する落語・・・「船弁慶」「遊山舟」

木戸孝允日記明治 8 年 1 月 8 日・・・「二字頃大久保来訪同氏同伴にて三橋楼に至る」